

—あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ—

とめ

市議会だより



2021
第65号
2月21日

西郷小学校
6年生のみなさん



目次

特集1 意見募集	2
特集2 子供議会2020	4
12月定期議会	6
特集3 登米総合産業高校と意見交換	9
常任委員会報告	10
一般質問	13

特集1

3つのテーマについて 「意見募集」を実施

今年度も「ワールドカフェ方式」による意見交換会を予定しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今回は新たな手法として3つのテーマについて、10月20日から11月6日までの期間実施しました。投函箱は各総合支所、公民館、ふれあいセンターに設置しました。



投函箱は手作り



東和総合支所



登米総合支所

皆さまから、102件の意見を頂きました。紙面の都合上、要約して掲載いたします。なお、市議会ホームページにも掲載しております。

テーマ①

高森パークゴルフ場、チャチャワールドいしこしについて

- ・使用料金の見直し
- ・イベントの開催
- ・現地への誘導看板の設置
- ・芝生の適正管理
- ・喫煙所の園外移転
- ・従業員の待遇向上

テーマ②

コロナ禍における市内学校行事の考え方

- ・学校ごとに対応のばらつきがある
- ・対応に慎重になりすぎている
- ・コロナ対応によって、子ども達の心身の成長や体力低下が懸念される
- ・教育委員会と学校及び保護者間の意思疎通を迅速にする体制の検討
- ・学校行事の見直し

テーマ③

市内の産業を活性化するには

- ・畜産バイオオマスの導入
- ・道の駅に自由に農産物を出品できる体制構築
- ・まんが文化を発信する施設の建設
- ・コワーキングスペースの設置
- ・市と商工会の連携強化
- ・インターネットの活用による産業PR
- ・小中学生への産業紹介
- ・NHK「おかえりモネ」効果の積極的な活用
- ・農業への支援は新規就農までに留めるべき
- ・積極的な飲食店の利用促進
- ・市内でお金を使う仕組みと市の物産が広く売れる仕組み作りの促進

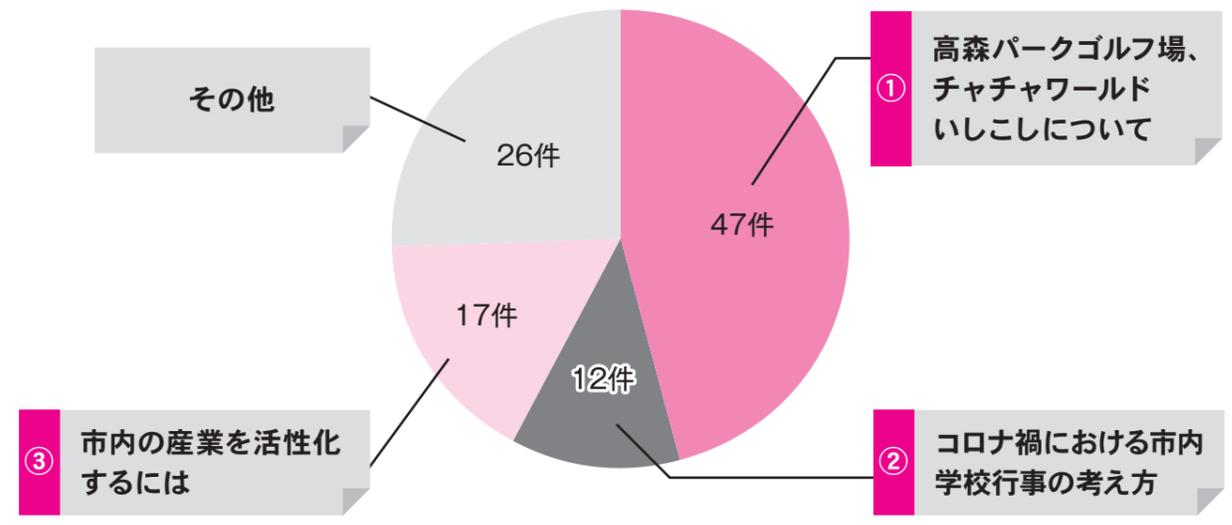
その他

学校教育に関して、スマホなどの持ち込みを可能にするべきといった意見や、教育への保護者の積極的参加の促進を促すべきといった意見をいただきました。

また、議会に関して、議員定数や報酬の削減、政務活動費の精査などの意見や、議会中に居眠りをしたり、毎回早退する議員がいる。議員は公約を守っているのかなど、意見もあつた。

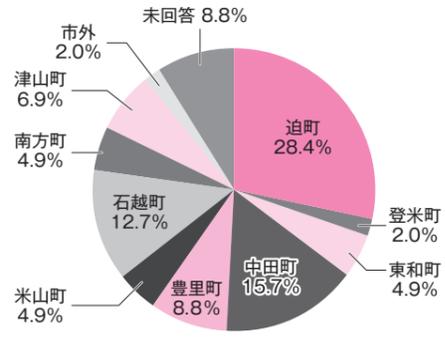
多くの意見をありがとうございました。寄せられた意見は今後の調査などの参考にさせていただきます。

募集テーマごとの意見数



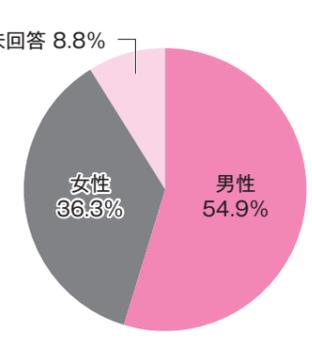
居住地

居住地	意見数	居住地	意見数
迫町	29	石越町	13
登米町	2	南方町	5
東和町	5	津山町	7
中田町	16	市外	2
豊里町	9	未回答	9
米山町	5		



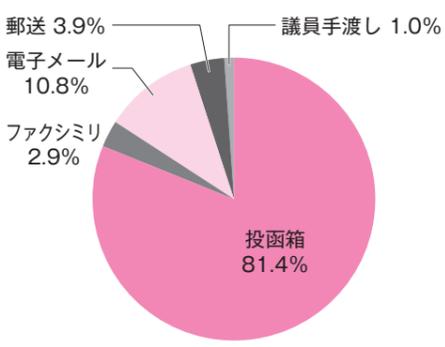
性別

性別	意見数
男性	56
女性	37
未回答	9



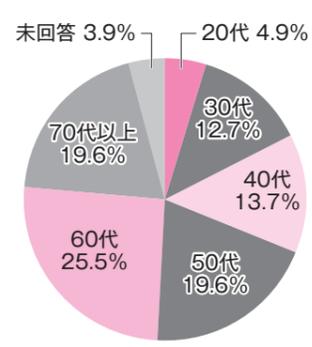
提出方法

提出方法	意見数
投函箱	83
ファクシミリ	3
電子メール	11
郵送	4
議員手渡し	1



年代

年代	意見数
20代	5
30代	13
40代	14
50代	20
60代	26
70代以上	20
未回答	4



特集2 登米市 子供議会 2020

特集
定期議会
特別議会
委員会
一般質問
議会の動き
市民メッセージ

輝け、未来世代！ 子供たちの考えを見逃すな

とめ青年会議所主催、登米市議会共催で開催

今年度の「子供議会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面による質問と回答という方式で行われました。子供議会の目的は、地方自治に関心を深めることです。そして、自分たちが住む登米市に関心を持ち、まちづくりを他人事とせず、『あふれる笑顔 豊かな自然 住みたいまち とめ』の今と未来を考えることです。自分の考えを伝えることは、とても難しいことですが大切なことです。この貴重な経験を、これからの学校生活や今後の人生に生かし、大きく成長されることを期待します。



石越中学校2年
佐藤 龍玖さん

問 大型の商業施設も増えて、明るく近代的なまちになってきている。一方で、古くからの商店街の賑わいが薄れ、シャッターを下ろした店も増え、祭りなどのイベントも無くなっている。活性化のための支援は行われているか。

答 賑わいを取り戻すため、空き店舗対策、活用を図る起業家の支援に取り組んでいる。高齢者が商店街で買い物のできる環境や地域の憩いの場の形成となる商店街の応援に努める。



佐沼中学校2年
石川 大翔さん

問 ICT教育の導入についての考えは。導入にはリスクもあるが、それ以上にたくさんメリットもある。タブレットやパソコンなどを利用しての授業は楽しく、モチベーションが上がるが市の取り組みは。

答 ICTを活用した学習環境整備に積極的に取り組んでいる。現状は、校内の通信環境がよくなく、使いにくい部分があったが、改善を図り使いやすい環境になっている。効果的なICT教育を推進する。



津山中学校2年
佐々木 輝さん

問 「総合的な学習の時間」に質問紙調査をした。「避難所」「避難場所」の違いを知らない人や災害に対する意識が低い人が多かった。避難が必要な場合、高齢者や体の不自由な方への安全の取り組みは。

答 大雨や地震にに応じて開設予定の避難所を事前に定め、チラシやホームページでお知らせしている。「高齢者等避難開始」情報の発令や、「体の不自由な方」などには、「地域防災計画」による取り組みを行う。



東和中学校2年
佐藤 由貴さん

問 市にショッピングセンターが少ない。移動が大変な高齢者なども買い物に「楽しく」できるように、市に3〜5店舗ほど少し大きいショッピングセンターを造り、地場産品などの提供をしては。

答 市の役割としては、民間企業が参入しやすい条件整備を図ることが重要である。若者が暮らしやすく、移住者や観光客にも魅力のある整備を進める。



豊里中学校2年
藤村 遙さん

問 学校に通学する道で、いくつか危ないところがある。道路の脇に生えている草が道路に飛び出している、コンクリートに穴ができ、段差に引っかかることなど多くある。修理する道には条件などがあるのか。

答 道路の維持管理には、舗装の補修、側溝の改修や土砂撤去、除草や植樹帯の管理、除雪作業など多くの種類がある。市民から通報や要望を受け、現場の状況を確認し、危険な箇所や通学路を優先して対応している。



登米中学校2年
鈴木 胡春さん

問 高齢者の人数が多いように感じる。それに伴い、介護施設は充実していると思う。しかし、認知症を専門に扱う医師や検査機関が少ないと思う。現在の病院や医療従事者の数は利用者数に対して十分か。

答 病院数は充足しているが、医師不足は深刻だ。脳疾患、分岐等は石巻赤十字病院や大崎市民病院との連携で対応している。認知症は、専門医がいないため、市内開業医と連携し対応する。



中田中学校2年
早坂 監二さん

問 学力向上施策として、「わかる授業の展開」などをあげている。一方、生徒アンケートでは、「学力は全国より劣っているように感じる」との疑問が複数あった。施策の思いが伝わっていないがどう考えるか。

答 「わかる授業」の思いが届いていないのであれば残念だ。取り組みを共有すること、授業の進み方を確認する「登米市学習スタンダード」を作成している。



新田中学校2年
佐野圭太郎さん

問 各総合支所に市長への提言箱を設置しているが、その存在を知られていないと思う。総合支所だけに置くのではなく、もっといろいろな場所に設置してはどうか。

答 より多くの市民からご意見をいただく機会を確保するため、9つの総合支所の他、市民が集う公民館やふれあいセンターにも設置しており、現在、市内30ヶ所に設置している。事業目的や制度の内容は広報などを利用して情報発信する。



米山中学校2年
蓮沼 大武さん

問 コロナウイルスに感染した場合、自宅療養と宿泊療養があるが、本市に宿泊可能な施設はあるのか。可能な場合、宿泊費用は自己負担となるのか。市からの補助は出るのか。

答 感染した場合には、感染症指定医療機関に入院しての治療となる。無症状や軽症は医師の判断で宿泊療養施設や自宅での療養となる。宿泊療養施設は市内には無く、一般に公表はしていない。費用は県が負担し、自己負担は無い。



南方中学校3年
千葉 雄翔さん

問 市には、長沼工業団地、登米インター工業団地がある。少しずつだが工場が新設されているが、いまだ土地は空いている。他の自治体との差別化を図り、本市らしい、企業が魅力を感じる特色は何か。

答 立地検討をする企業の多くは、輸送コスト削減のため、高速道路等の交通の便を活かした用地を探している。交通アクセスが良くなることは、進める上でプラス材料である。今後も継続した誘致活動を行う。

多くの要望が出されました

要望を提出していただいた皆さん

津山中学校	1年	大森 奈々さん
新田中学校	2年	佐野圭太郎さん
米山中学校	2年	蓮沼 大武さん

佐沼中学校

1年	菅原 唯愛さん
1年	飯塚 風葵さん
1年	新井 瞬さん
1年	渡邊 愛花さん
1年	光澤 遼さん
1年	齋藤 くるみさん
1年	石川 大翔さん
2年	上野 敬太さん
2年	遠藤 夢空さん
2年	藤原 涼真さん
2年	遊佐 花音さん
2年	佐々木 歩果さん

石越中学校

2年	佐藤 龍玖さん
2年	佐藤 七彩さん
2年	三浦 詩菜さん
2年	千葉 樹さん
1年	高橋 和花さん
1年	田村 碧彩さん
2年	佐藤 由貴さん
2年	後藤 来実さん
2年	舟嶋 嶺さん
2年	芳賀 虹太さん

豊里中学校

2年	藤村 遙さん
2年	衣川 航平さん
2年	須藤 悠太郎さん
2年	佐々木 陽さん
2年	鈴木 胡春さん
2年	佐藤 遥日さん
2年	熊谷 沙耶花さん
2年	高橋 優心さん
2年	柴田 コウさん
2年	菊地 莉緒さん
2年	木村 莉緒さん

中田中学校

2年	早坂 監二さん
2年	熊谷 和さん
2年	佐々木 水希さん
2年	菊田 桔平さん
2年	佐藤 慎礼さん
2年	高橋 陸さん
3年	鹿野 朝陽さん
3年	佐藤 ころもさん
3年	後藤 雄翔さん
3年	千葉 雄翔さん

特集
定期議会
特別議会
委員会
一般質問
議会の動き
市民メッセージ

第二次総合計画基本計画 改定 第4次行財政改革大綱 策定 いずれも 可決

12月定期議会は、12月4日から18日までの15日間の日程で開催され、条例の一部改正、各種会計補正予算など33の提出議案がすべて原案のとおり可決されました。また、議員からはそれらの内容やさまざまな地域課題など19人の議員から一般質問がなされました。

・第一次総合計画基本計画の改定

平成27年度の第二次総合計画策定から5年目となり、社会情勢の変化に対応するために、見直しと内容の一部変更が行われた。
合わせて今回の改定には初めてSDGsが盛り込まれた。



SDGsとは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。
17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っている。

Q 子育て支援の充実の中で、不登校の問題対応として「居場所づくり」と明記されているがどんな取り組みか。
A 教育機会確保法を基に活動している団体と連携して、市としてどのような支援ができるのか検討中であり、今後そのような居場所づくりに努めていく。

・第4次行財政改革大綱の策定
本市では、令和3年度には普通交付税が5年前と比較して約37億円の減額が見込まれる。また、少子高齢化に伴う社会保障費の増加などに多額の費用が見込まれることから、より一層の行財政改革を進める必要がある。

Q 第4次行財政改革大綱は市民に対し、負担をお願いしていかないと完遂できないイメージであるが。
A 合併時から手数料・使用料などを大きく見直してこなかった。市民負担のあり方を検討していく。

反対討論 佐藤 惠喜 議員
第4次行財政改革大綱は行革の名のもと、市民に対して新たな負担を求めるものであり、到底認められない。
また、市街地再開発など、直営よりも建設費や運営費が高くなるPFI導入にも反対する。

指定管理者の指定(継続) 民の力の結集で 魅力ある活動に!

(単位:千円)

指定管理施設	指定管理団体	期間	指定管理料(通算)
迫公民館、迫勤労青少年ホーム	佐沼地区コミュニティ推進協議会	3年	94,566
北方公民館、迫青少年センター 迫農村環境改善センター	北方地区コミュニティ推進協議会	3年	57,370
新田公民館	新田地区コミュニティ推進協議会	3年	50,668
森公民館	森地区コミュニティ推進協議会	3年	59,571
米谷公民館、不老仙館 東和楼台コミュニティセンター	米谷地域づくり推進協議会	3年	73,085
米川公民館 東和国際交流センター	米川地域振興会	3年	60,896
錦織公民館 東和勤労青少年ホーム	錦織地域振興会	3年	68,369
南方公民館、東郷公民館 南方農村環境改善センター 南方歴史民俗資料館、南方東郷運動広場 南方老人福祉センター 南方定住促進センター 西郷公民館、南方就業改善センター	南方コミュニティ運営協議会	3年	218,375
迫B&G海洋センター 中田B&G海洋センター 米山B&G海洋センター	特定非営利活動法人登米市体育協会	3年	81,403
伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター 迫野鳥観察館	有限会社伊豆沼農産	3年	34,434
南方産地形成促進施設	特定非営利活動法人もっこの里	3年	16,134
もくもくランド	協同組合もくもくランド	1年	8,393
迫梅ノ木公園、迫佐沼公園 迫大東公園	特定非営利活動法人登米市体育協会	3年	51,456
迫体育館、迫武道館、新田総合運動場 中田総合体育館、中田球場 諏訪公園	文化・スポーツクラブはさま 特定非営利活動法人登米市体育協会	3年 3年	82,365 125,391
豊里運動公園、豊里花の公園	特定非営利活動法人とよさとマイ・タウンクラブ	3年	54,432
石越体育センター、石越総合運動公園	特定非営利活動法人いしこしENJOYクラブ	3年	46,227
津山林業総合センター 津山若者総合体育館、津山運動広場	つやまモクモクスポーツクラブ	3年	51,774



伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター



南方産地形成促進施設(道の駅みなみかた)



津山林業総合センター



石越体育センター



豊里花の公園



迫体育館



中田総合体育館(トレーニングルーム)

12月定期議会審議結果(意見が分かれた議案について掲載しました)

議員名	議決結果	賛成	反対	採決結果																										
				1 上野 晃	2 曾根 充敏	3 佐々木好博	4 須藤 幸喜	5 岩淵 正弘	6 佐藤千賀子	7 熊谷 和弘	8 日下 俊	9 佐々木幸一	10 氏家 英人	11 工藤 淳子	12 武田 節夫	13 関 孝	14 岩淵 正宏	15 中澤 宏	16 浅田 修	17 佐藤 惠喜	18 田口 政信	19 沼倉 利光	20 相澤 吉悦	21 熊谷 憲雄	22 及川長太郎	23 八木しみ子	24 伊藤 栄	25 及川 昌憲		
議案第113号 第4次登米市行財政改革大綱の策定について	可決	19	4	○	欠	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議

※採決結果欄 (○)は賛成、(×)は反対、または賛成しなかった者、(欠)は欠席、(議)は議長。

災害廃棄物緊急処理支援事業 △4億7,392万円
人件費（人事院勧告に基づく給与改定） △1億6,039万円など

一般会計補正予算

8億3,775万円を減額

東京オリンピック事前合宿等支援事業



補正額 1,814万円
オリンピック支援事業（選手移動・宿泊ほか） 1,368万円
交流事業（事前・事後交流、大使招聘） 328万円
その他（事務局費、東京出張旅費） 117万円

新型コロナウイルス感染症対策における減額

（各種事業等の中止等による）

補正額 △4,870万円

議会費	旅費等	△ 71万円
総務費	旅費等、人権講演会ほか	△ 229万円
民生費	介護保険特別会計繰出金	△ 8万円
農林水産業費	旅費等、中田町農業祭補助金 全国和牛能力共進会対策費ほか	△ 335万円
商工費	産業フェスティバル補助金 観光・地域交流イベント補助金ほか	△ 1,183万円
消防費	消防団演習ほか	△ 1,669万円
教育費	みなみかた秋祭り、カップハーフマラソン大会、石ノ森章太郎ふるさと記念館関連事業ほか	△ 1,293万円

市役所各庁舎衛生環境向上事業（新型コロナウイルス等感染予防）



補正額 1,057万円
手洗い蛇口（64箇所） 417万円
天井灯電源スイッチ（156箇所） 463万円
入口扉（23箇所） 176万円

NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」推進事業



補正額 475万円
●NHKとの相互協力による広報展開（番組ポスター・ロゴのぼり・ロゴステッカーの制作、NHKステラへ広告掲載、ガイドブックへ広告掲載）
●気仙沼市との連携による広報展開

請負契約の変更

緊急告知放送屋外拡声装置整備工事

変更前

5億8575万0000円

変更後

5億9549万2700円

変更内容

再利用を予定していた各種配線を現地調査した結果、全ての配線の交換が必要となることなど。

なぜ契約工事のたびに大きな金額の変更がでてるのか。

発注準備について、調査が不足していた。今後は十分な調査を進めていく。



11月特別議会

条例の一部改正

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

令和3年1月1日施行の個人所得課税の見直しに伴い、国民健康保険税の負担水準に關して意図せざる影響や不利益が生じないよう、条例の一部改正するもの。

軽減判定所得

	改正前	改正後
7割軽減基準額	基礎控除額33万円	基礎控除額43万円 +10万円×（給与所得者等の数-1）
5割軽減基準額	基礎控除額33万円 +28.5万円×被保険者数	基礎控除額43万円 +28.5万円×被保険者数 +10万円×（給与所得者等の数-1）
2割軽減基準額	基礎控除額33万円 +52万円×被保険者数	基礎控除額43万円 +52万円×被保険者数 +10万円×（給与所得者等の数-1）

特集3

今年オンラインで対話、登米総合産業高校と意見交換

産業建設常任委員会では、登米総合産業高校3年情報技術科の生徒のみなさんと意見交換を行いました。議会の仕事を知らず、社会の一人としてまちづくりに参画するきっかけづくりをする取り組みで、今年で2回目となります。コロナ禍のため大勢が一堂に会しての意見交換ではなく、議事堂と登米総合産業高校（総合産業教室）をリモートでつなぎ、オンラインで行いました。

出前講座

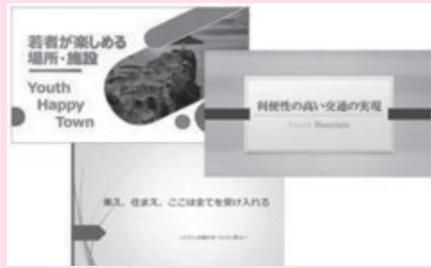
委員長が『市議会の仕事』として議会の役割や活動について説明。「18歳になったら選挙に行つて、より良い社会づくりに参画して欲しい」と話しました。

起業実践

登米総合産業高校では、生徒が地域課題の研究『起業実践』に取り組んでいます。今年度、情報技術科では9つのテーマの研究がなされ、今回3つのテーマを発表して頂きました。



迫庁舎と登米総合産業高校をリモートでつないで実施



登米総合産業高校の生徒から頂いた3つの提案書

意見交換会

昨年の意見交換会で、「登米市で若者が暮らすには、生活環境の整備や仕事が大切」との意見がありました。このことから今回は、『若者が住みたい未来のまちづくり』をテーマに、率直な意見を寄せて頂きました。

高校生のふるさと登米市を思う気持ち、まちづくりに主体的に関わろうとする姿勢、将来を描くまっすぐな視点に触れ、とても心強く頼もしく感じました。

頂いた意見は委員会で整理し、議会活動の参考にさせていただきます。

意見交換会終了後のアンケートでは、出前講座や意見交換を通じて、「市議会に関心が持てた」「選挙があれば必ず投票に行く」との回答が多くありました。

将来の登米市のまちづくりの若き担い手と、議会が夢を語り合いながら、主権者教育・シティズンシップ教育にも積極的に関わって行きたいと思えます。

総務企画常任委員会

人口減少を見据えた 下水道事業展開を



新小路地区農業集落排水処理施設

下水道施設などの状況 (現地調査)

(10月20日調査)

新小路地区農業集落排水処理施設(中田町浅水字新田地内)外3施設の設備状況を調査した。新小路農集処理施設は、流量調整、嫌気性ろ床及び接触ばっ気を組み合わせた処理方式で、計画汚泥数量日平均28.6m³の処理能力を有する。水洗化人口650人以上の下水を処理し、農業用排水路へ浄化管理され排出されている。

本地区の利用者1人当たりの処理経費は1万9千円程度で現在推移しているが、今後人口減少が加速化することによる処理費負担の増大が課題である。

(株)いしこしの意見交換会

(10月26日調査)

令和2年2月に産業建設常任委員会が意見交換会を実施しているが、機構改革による所管換えにより、再び総務企画常任委員会委員と(株)いしこの役員による意見交換会

を実施した。

市では、「令和5年度をもつて第三セクターを解消し、遊園地事業から撤退という方針を説明している」としているが、意見交換では、株式の取り扱い、遊具等の財産の処分について具体的な方向が示されていないなどの不安があるような印象であった。

また、パークゴルフ場を含む指定管理のあり方も、積算基礎や運営の方針等の食い違いが見られ、相互に十分な協議が必要である。

高森公園は、旧石越町が1億創生事業として遊園地整備をし、子どもたちに多くの夢を与えてきた。市では、交流人口増を目指す目的で多世代の交流施設として、令和元年6月にパークゴルフ場をオープンした。これまでの歴史的な経過を踏まえ、相互理解と協調をし、第三セクターの方向、指定管理のあり方を相互に模索し、運営・管理の方向を示していく必要がある。

コミュニティFMの活用

(11月11日調査)

ラジオによる情報伝達手段として活用しているが、単純に放送時間を成果指標として評価することは困難である。

さらに、災害時などにおける有効な情報手段としているが、効果の検証が必要である。また、特に資本関係などないことから別途、市との協議の場が必要でないか。



(株)いしこしの意見交換

教育民生常任委員会

市民サービスになるのか 社会教育を市長部局へ移管

教育委員との意見交換会

(9月25日調査)

市民サービスの向上と組織の最適化を目的として進める市の組織改編について、社会教育部門を教育委員会部局から市長部局に移管することで、人材育成と地域づくりを一体的に進め、効果的で実効性の高い組織を再構築し、協働の推進につなげる計画がなされている。

教育委員会では、既に移管している東松島市と一関市を視察し、先進事例の調査をしている。

本市は他市と比較すると、公民館では地区の特色を活かしたコミュニティ事業に取り組んでおり、指定管理が充実し、機能を果たしている。社会教育と学校教育は、教育委員会の果たす役割が大きいと感じるため、組織改編と公民館の市民センター化については、拙速に判断せず、本市における課題を整理し、教育委員会の意見を尊重して時間を

かけて協議、検討すべきと考える。

子育て支援事業の現状

(11月18日調査)

今年度実施した意見交換会のうち、市の子育て支援事業に関する意見・要望から項目を絞り込み、現状について調査を行った。

現状は、児童クラブ等学校利用や開放が積極的になされていない部分がある。今後の学校再編にあわせ、自由来館等もできるように工夫されている。津山地区からは児童館設置の要望もあるが、学校再編にあわせ、地域の要望に応えていくことを望む。

保育士の人員確保は、現状困難な状況であるが、今後も人員確保のため更なる努力を望む。

幼保無償化により、これまで補助対象となっていた部分が一括になることで、逆に副食費など負担増となってしまう。制度全体について、利用者の立場で考え、検討していくことが必要だと考える。子ども園が各地域に整備されてきているが、使用開始後

の不具合が報告されている。

土地や建物の環境改善により、教育・保育の質の向上を図るための環境整備事業については、園児の健康や安全を確保するためにも早急な対応を望む。



明星こども園

登米保健所が担う業務分担

(11月19日調査)

県では昨年、令和3年度に登米・栗原の両保健所を支所化する方針を示したが、新型コロナウイルス感染症対策のため1年延期させた。

現在コロナ禍での対応もあり、新型コロナウイルス感染症対策と登米保健所の支所化について調査した。支所化については「業務が

複雑多様化している状況であり、機能・体制強化が再編の基本的考えである」として、より専門性の高い対応に移行するという考えのようだ。また、所管区域の状況が変化していることなどからも、登米保健所を東部保健所の支所とする組織改編で検討している。

登米保健所は、本市の保健医療福祉行政、環境生活行政とも密接な関わりがあることから、保健所が支所化することにより、「機能が縮小し、感染症対策にも十分な対応が出来なくなるのでは」と懸念を伝えた。

当委員会としては、現在コロナ禍で不透明な状況の中、再編については行政サービスの低下と市民に不安を招かないような組織体制を今後も要望していきたい。

その他の調査項目

- ・敬老行事及び老人クラブ事務事業評価
- ・病院事業中長期計画の見直し及び「基幹型臨床研修病院」指定申請

産業建設常任委員会

登米地域の安全・安心な 交通などの確保を



完成間近な「紫雲山大橋」

宮城県東部土木事務所登米地域事務所における主要事業

(10月6日調査)

令和2年度の県の主要事業についての質疑応答では、当常任委員会から「みやぎ県北高速幹線道路Ⅲ期区間(左沼工区)の進捗状況などについて質した。また現在、整備計画から外れているⅤ期区間(北方バイパス区間)整備の再検討について強く要望を行った。

現地調査では、①完成間近な「みやぎ県北高速幹線道路(紫雲山大橋)」「②長沼ダム関連事業で未だ懸案となっている県道新田米山線の進捗状況③津山町南沢川河川改修及び災害復旧工事の現状について調査した。

県においては、登米地域の安全・安心な交通などを確保するための整備及び管理を本市と足並みを揃えてさらに事業推進されたい。

農業委員会農政改革特別委員会との意見交換会

(11月10日調査)

『入・農地プラン実質化について』①「担い手の確保」、②「担い手の集積・集約化」の2点について意見交換を行った。農業委員の皆さんからは「地域で座談会をすると、集まるのは高齢者。これからは、中心経営体がないとその先に進まない。したがって新規就農者、後継者を育てていかな」と農業を続けられないなどの意見が述べられた。

「入・農地プラン」の取り組みについては、コロナ禍で多くの農業者などを集められないため、農業委員、農地利用最適化推進委員などを中心に意見聴取を実施しているのが現状である。

県へのプラン提出に向けて、市がさらにリーダーシップを発揮するとともに、関係機関が力を合わせ、しっかりと取り組むべきと考える。



農業委員会との意見交換

登米市産業振興会との意見交換会

(11月16日調査)

『新型コロナウイルス対策』について意見交換を行った。飲食店については、「コロナ感染症拡大防止対策に温度差がある」との意見があった。また、「感染防止対策は自助努力」という一方で、市からの感染対策支援の拡充を求めるとの要望があった。その他にも、多岐にわたる視点での質疑応答が行われた。

今後も登米市産業振興会との意見交換会を継続していきたい。

問 病院・庁舎は高台へ

答 調査研究を進めている



相澤吉悦 議員

市長は登米市民病院新築移転を含む中心拠点施設の再編骨子案を発表した。市民病院は中江公園などがある市有地に移転新築し、事業費は約1

00億円で令和7年の完成を目指す。さらに病院移転後、3庁舎に分散する市役所機能を、市民病院本館棟を改築し、移転集約させる構想を9月3日の新聞で発表した。

私としては、病院・庁舎移転改築は、大雨で水害が発生する恐れがある地区ではなく高台に移転すべきと思うが。

内水被害対策は県が



熊谷和弘 議員

問 車の急発進防止装置に補助を

答 先進自治体の対応状況を調査する



踏みまちがいに注意!



高齢化が進む現代社会において、これに比例して高齢者ドライバーも増えている。理由としては、買い物や通院などのため、自家用車に頼らざるを得ないというのが現状である。このような状況において、全国的に急増しているのが高齢者によるアクセルとブレーキペダルの踏み間違いによる事故である。

この対策として、国では現在、65歳以上の方を対象として、急発進防止装置の購入及び設置費用に対する補助制度を設けている。これに合わせて費用を補助している自治体がある。

本市においても実施すべきと考えるが。

県内では大和町が同様の補助制度を行っている。

本市としては、今後の国の動向を注視するとともに、先進自治体の対応状況なども調査しながら、事故防止対策や補助制度の在り方について検討していく考えである。

この制度について、全国には年齢制限を設けていない自治体もある。本市においても検討すべきと考えるが。

事故防止対策については、関係機関と連携しながら進める考えである。その他の質問



水害が発生する地区から高台への移転を

今現在の財源計画は、整備手法や有利な財源確保に向け情報収集に努め、検討を進めていく。

令和6年の完成を目指し、整備を進めている長沼川河川改修事業による整備効果が期待されるほか、課題に対応した減災・防災機能を強化する。

令和6年の完成を目指し、整備を進めている長沼川河川改修事業による整備効果が期待されるほか、課題に対応した減災・防災機能を強化する。

令和6年の完成を目指し、整備を進めている長沼川河川改修事業による整備効果が期待されるほか、課題に対応した減災・防災機能を強化する。

問 遠隔地連携を推進すべきと考えるが



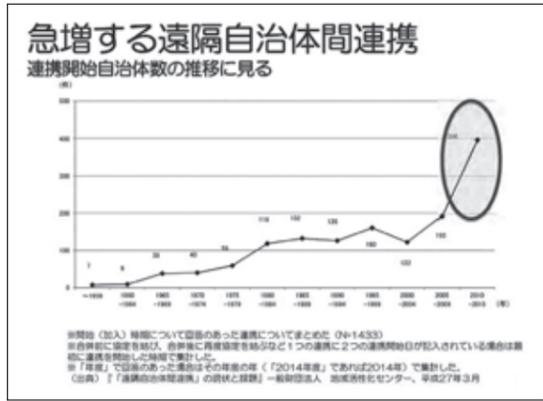
佐々木好博 議員

答 地域課題解決のため研究していく

現在「特別区全国連携プロジェクト」により東京23区と各地域が連携・交流する事業が展開されている。本市も「つながるきつかけづくり」を推進していく。

問 遠隔地連携において「ヒト・モノ・オカネ」の流通を活性化させることが今後、自治体の運営と持続に必要ではないか。

問 姉妹都市も遠隔地連携の一つだが、それを深化させる考えはないか。
答 青少年交流以外にも検討していく。
問 海外留学や高速通信



急増する遠隔自治体間連携

問 国としては東京圏から地方への人の流れを作りたいという想いがあるが、人口流出につながるという懸念から難しいテーマと考えている。
問 移住を進める施策として国の進める「生涯活躍のまち構想」推進を提案するがどうか。
答 高齢者受け入れ側の医療や施設状況により難しいと考えているが、先行事例を調査・検討しながら取り組んでいく。



問 街並み景観整備事業の充実を



伊藤 栄 議員

答 県などと協議を進める

令和3年度より小学4年生の社会科教科書に「みやぎの明治村とよま」が掲載される。
これまで長年取り組んできた、教育資料館を核とした街並み景観整備事業をさらに充実するため



みやぎの明治村の核となる武家屋敷通り

問 観光施設の解説板は子供でも理解ができるように見直すべきでは。
答 登米懐古館が移転したことから、各施設の案内表示が必要であり、効果的な方法について県などと協議をしていく。
問 市内および県内の児童が地元を知る機会であり教育関係者などに発信を。

問 文化財施設や街並みの見学などを通して「調べ学習」を行うよう校長会議で指示をしている。また、教育関係者や修学旅行などに興味を持っていただくようにしっかりと発信をしていく。
問 街並み景観整備事業では、既存住宅のリフォームで外壁塗装などは対象外である。運用の拡大はできないか。

また、重点区域（寺池）以外の商業施設の看板などの配色は景観に合わず、協力要請できないか。
答 運用については審査会の意見を伺いながら検討を重ねる。既存の商業施設は企業のシンボルがあり制限が難しいが、新たな建築物が立地する際は、配慮していただくよう努めていく。



問 二期目の市長選、出馬するのか



氏家英人 議員

答 微力ではあるが、挑戦する

これまでの職務を振り返り、市長自身の自己採点で何点をつけるのか。
答 自己採点は非常に難しいことから、市民の皆さまに判断していただく

のが良いと考えている。
問 残りの任期は五カ月足らずとなった。二期目の選挙戦に出馬するのか。
答 決して平坦な道のりではないが、コロナ禍対応、少子高齢化などの諸課題から逃げることなく立ち向かう覚悟である。微力ではあるが、市民皆さまの英知をお借りしながらさらに前進するため、次なる市長選に挑戦



問 中心市街地再編案の取り下げを



佐藤恵喜 議員

答 まちづくりのラストチャンスだ



大雪に覆われた中心拠点施設の再編が計画されている迫庁舎エリア

問 新型コロナウイルス感染拡大の中、市当局は市政の危機を強調している。だとするならば、先に示した「登米市まちづくり将来ビジョン」中心拠点施設の再編案は取り下げをべきだ。
答 病院を含めた中心市街地の再編は早期に実施しなければならない。合併特例債の発行期限が迫る中、ラストチャンスだ。
問 市役所迫庁舎はまだまだ使えるのではないか。
答 迫庁舎の長期使用は問題ない。
問 市民病院を新築すれば、医師不足が本当に解消できるのか。財政健全化も図られるのか。市立病院のベッドをこれ以上減らすな。豊里と米谷病院の民営化はやるな。
答 新築で働きやすい環境になる。一般会計の負担を想定している。現時点では適正な病床数である。経営改善を最優先にする。
問 本庁機能の集約で、中田や南方庁舎に空きスペースが生まれる。もっと



令和2年度明るい選挙啓発ポスターコンクールで入選した米山東小学校5年、山内元陽（やまうちあさひ）さんの作品

問 新型コロナウイルス対応策は

答 本市独自支援策を展開していく



日下 俊 議員

なった場合待機はどごで。
答 重症化リスクなどを考え宿泊療養や自宅待機などを保健所が判断する。
問 発熱外来診察室はどのような対応をしているのか。

問 保健所はどのような役割を果たすのか。

答 感染者の健康調査や医療機関との調整、感染症対策などを担当する。
問 PCR検査で陽性と

問 受診対象者は小学生以上で医療機関から紹介された方。症状を確認した上で受診をお願いする。
問 市内中小企業、特に観光業や飲食店などが大



多忙な登米保健所



きなダメージを受けているが、その支援策は。
答 事業者支援として9億円、コロナ感染症対策に9億8千万円、本市独自事業として21億5千万円を講じてきた。
問 児童生徒の感染も心配されるが発生時対応は。
答 陽性者確認の時は、出席停止と学校は臨時休業となり期間はまちまち。
問 重症化が懸念される老人保健施設や介護施設などへの指導はいかに。
答 老人介護施設などへの指導は主に市ではなく保健所がその任にあたる。
問 手洗い、うがい、マスクの3密防止以外の感染拡大防止にコロナ接触アプリの導入を進めては。
答 積極的に進める。
問 生活弱者への支援は。
答 一人親世帯への支援は1家庭5万円支給する。

問 女川原発再稼働はやめるべきでは

答 避難計画の実効性の担保を取っていく



工藤 淳子 議員

を大きく引き離している。再稼働の大前提であり、最低条件であるはずの「住民避難計画の実効性」さえ担保されていない。UPZ圏内の市長としてどう考えているのか。
答 広域避難訓練の日程は確定していないが、2月初旬頃で、避難計画の実効性の担保をしっかりと取っていききたい。
問 原発事故が起きたら、本市の住民は屋内退避が前提になっているが、それで被ばくが防げるのか。
答 屋内退避は被ばくを全くなくすものではなく、あくまでも低減するもの。
防災避難体制の確立について
問 住民参加で「地域防災計画」の見直しを進める取り組み、ハザードマップの見直しはどうなっているか。
答 地域防災計画は毎年見直しを図ることになっている。県より南沢川流域等の洪水浸水想定区域が公表され次第、洪水ハザードマップの更新作業に取り組んでいく。
問 コロナ感染に対応した避難所運営マニュアルは策定されたのか。
答 本年8月に新型コロナウイルス等の感染症対策編を策定している。



女川原子力発電所

出典：東北電力制作資料より

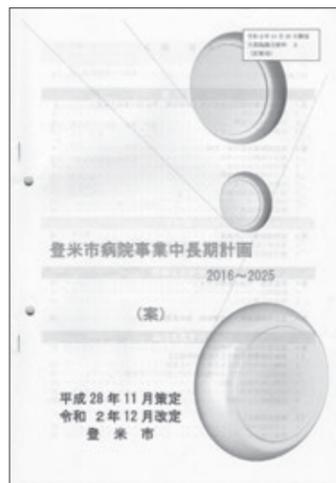
問 病院事業中長期計画の実効性は

答 医業収益の確保に取り組んでいく



岩淵正弘 議員

令和元年度業務実績において、経常収支比率と医業収支比率をどのように捉え、どのように改善する考えか。
問 今年度も、登米市立病院等運営協議会の外部評価を受けている。
経常収支比率は計画値99・8%に対して実績値は92・5%であり、7・3%の乖離がある。
また、医業収支比率は計画値91・3%に対して実績値は82・2%と、9・1%の乖離が生じている。
各市立病院で病床稼働率の向上を図り、医業収益確保に取り組んでいく。
問 会計制度や公営企業法など、経営改善にあたって障害となる制度や法律はあるか。
答 平成26年度に適用の会計基準見直しの影響により、経営状況に影響が生じている。
また、登米市立病院で初期研修医の受入れを可能とするため、基幹型臨床研修病院の指定を受けるための取り組みを進めている。
問 3つの市立病院を維持する経営は不可能ではないかと考える。市立病院を一つに集約する場合の課題をどのように捉えるか。
答 地域の需要に合う医療が確保されるという条件を整えば、指定管理者制度や民間譲渡などの望ましい経営形態について検討していく。



登米市病院事業中長期計画



問 病院への繰出金等の経営状況は

答 令和5年度、約24億円を見込む



沼倉利光 議員

病院事業中長期計画の前半5年間の評価と後半5年間にいかに生かした事業を行うのか。また、地域医療を確保しつつ、経費削減をしながら経営収支の見直し、繰出金などの経営改善の考えは。
問 常勤医師の減少により、登米、米山、津山の診療所の継続が困難となり休止、計画と乖離が生じた。患者数の減少や経営効率化が進まず収支の赤字が続ぎ、資金不足比率が10%を超え、起債許可団体になるなど、非常に厳しい経営状況である。経営改善が喫緊の課題で、一般会計の繰出金は令和5年度に約24億円



地域医療の要・市民病院



となる。6年度以降、企業債の償還終了があり、7年度は約20億円を見込む。
問 構想にある米谷・豊里病院の分院化によって、経営改善が図られるか。
答 数字がどのくらい改善するかまでは持ち合わせていない。
問 分院化された場合に悪影響はないのか。
答 各病院長の理解をい

ただくように、今後も話をさせていただく。
問 議会での病院の移転新築について質疑があったが、県とは実際に何回協議したのか。また、その協議内容は。
答 まだ、明確に決定している内容ではないため、考え方や財源確保について話をしている状況である。

問 下水道事業の経営戦略について

答 安定的に持続できる運営に努める



八木しみ子 議員

問 下水道事業は市民の生活水準や環境整備のため重要な公共施設として整備が進められてきた。今年度、企業会計に移行し同時に水道事業所と部

署を一元化、市民サービスの向上を図るとしているが、その効果について市長の所信を伺う。

答 公営企業会計の適用により、管理運営に係る分析を的確に行うことができ、職員の経営意識の向上や経営状況が分かりやすくなる効果がある。さらに組織統合による経費の縮減や危機管理体制強化の効果が充分発揮さ



れるように取り組んでいく。

問 経営課題と改善策は。

答 多額の地方債残高や汚水処理経費等々の課題がある。経営改善に着手し、安定的に持続できる事業運営に努めていく。

感染予防対策の徹底を

問 新型コロナウイルスの感染者が隣接する市町で増えているが、本市の市民に向けた感染予防策はどうか。

答 徹底した対策を働きかけるべきではないか。

答 感染症対策本部を設置、県や関係機関と連携し、市民への感染予防策の周知に取り組んできた。12月4日から連日感染者が発生している状況から、改めて基本的な感染対策の継続と最大限の警戒をお願いし、感染拡大防止に努めていく。



市民のための重要な汚水処理施設 (佐沼浄化センター)

問 農業収入減少対応策と将来展望は

答 主食用米から転作作物へ転換図る



浅田 修 議員

問 将来における本市農業の方向性は。

答 広大な水田をフル活用し、主食用米に偏った生産構造からの脱却を進める。国内消費量がますます減少していくことから、輸出用米の生産拡大や、飼料用米・飼料作物についても、畜産農家と連携し、水田の有効活用を推進する。

問 農業収入向上対策は。

答 主食用米と転作物との所得格差が課題となっている。国や県に対し交付金の上乗せ要望と地域独自枠の調整も行いながら、転作物への転換を進める。また、大豆や



令和3年は約4割の作付転換



中心拠点施設の再編案について

問 国の立地適正化計画において「浸水想定区域は計画区域に入れてはならない必須事項」となっているが、今回示された

追町佐沼の中心拠点施設

再編計画区域は0.5、3メートルの浸水が想定されている。計画に無理があるのではないかと。答 浸水想定区域については、その災害リスクを分析し、その回避の対策や対応により、指針に定めて策定することで、計画策定も可能という判断である。

問 結婚新生活支援で少子化対策を

答 本市の実態を踏まえた制度設計に



関 孝 議員

問 国では、少子化対策の一環として、新婚世帯に対し、「結婚新生活支援事業」を創設し、新居の家賃、敷金、礼金や引越し代などの新生活にかか

る費用を支援し、経済的な理由で結婚を諦めることがないよう後押ししている。本市でもこの制度を活用し、少子化・結婚対策に取り組んでどうか。

答 本市の婚姻の状況は、平成22年度に351件あった婚姻届が令和元年度では113件少ない238件となっている。出生数については、平成22年度は626人、令和



指定廃棄物の処理はその後どうなったか

問 市との間で2年間の保管の約束が、既に8年経過している。知事は「東日本大震災の復興で、残すは汚染廃棄物の処理」と話している。県と連携して課題解決に取り組んでいくべきと考えるが。

答 本市として、市町村長会議での議論の再開と、指定廃棄物の処理について、引き続き関係自治体と一層の連携を図り、国が責任をもって処理するよう強く要請していく。

問 米山地区の再編構想について

答 コンパクトシティの拠点の一つに



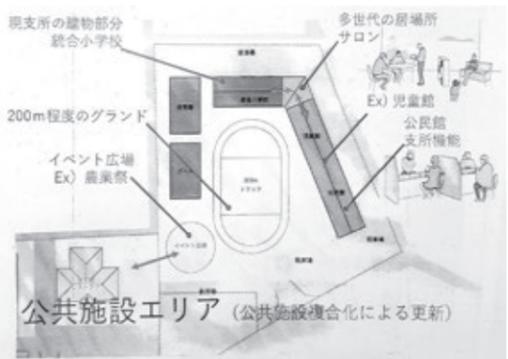
武田節夫 議員

問 米山地区の再編構想の取りまとめ状況と基本構想策定後の工程はどうなっているか。

答 ワークショップで3回積み上げてきた内容を米山地区事業推進協議会でさらに議論し、年度内に整理する。再編の工程は今年度の状況を基に次年度以降は基本計画を策定し、基本設計、実施設計とつなげていきたいと考えている。

問 学校は生涯学習や防災などの地域拠点施設であり、他の施設と複合化を図りながら再編を進める必要があると思うが。

答 社会教育施設や子育て支援施設との複合化に



米山地区のコンパクトシティ構想

注 シナジー効果…複数の要素が組み合わせることにより、元々持っていた以上の効果が生み出されること



問 再編エリアに地域住民も利用できる多目的運動場を併設する事で地域づくりへのシナジー効果が得られると思うが。

答 小学校の校庭として

ただでなく照明設備を設置することで、日中から夜間まで多世代にわたり活用が可能になることも地域づくりへのシナジー効果が得られると考える。

米山地区の皆様の思いの表れであり、希望が少しでも叶う形をとり、米山地区をコンパクトシティ・プラス・ネットワークの一つの拠点として作り上げる。

婚姻届は10年間で113件減少している

問 不妊治療に対する市の支援は

答 経済的・精神的負担軽減に努める



佐藤千賀子 議員

問 不妊治療には長い年月を要し、また、たくさんの方の協力が必要になってくる。市ではどのような支援を行っているのか。

答 不妊治療に関する県の助成対象となった夫婦に対し、その治療内容に関わらず、1回の治療につき10万円を上限とする助成を行っている。
問 不妊治療の専門医を登米市民病院に招聘する考えは。
答 産婦人科については大崎市民病院とのセミナー・シンポジウムで対応しており、医師の招聘まで



幸せファミリー

問 不妊治療の充実が、女性にとって出産への過度なプレッシャーとならないよう、多様な価値感について学ぶ機会を創出する考えは。
答 家族や職場、地域などへの不妊治療に関する理解促進と、安心して治療を受けられる環境整備に取り組んでいきたい。
問 不妊治療の充実が、女性にとって出産への過度なプレッシャーとならないよう、多様な価値感について学ぶ機会を創出する考えは。
答 どのような形でできるか、検討したい。

議会の動き

10月	1日	広報広聴委員会
6日	産業建設常任委員会	
7日	岩手・宮城県際市町議会議長会 総会	
9日	広報広聴委員会	
15日	教育民生常任委員会	
16日	宮城県市議会議長会秋季定期総会	
19日	広報広聴委員会	
20日	議会改革推進会議	
26日	総務企画常任委員会	
28日	産業建設常任委員会	
29日	広報広聴委員会 全員協議会	
11月	5日	教育民生常任委員会
6日	議会運営委員会	
10日	広報広聴委員会	
11日	議会改革推進会議	
16日	産業建設常任委員会	
17日	産業建設常任委員会	
18日	総務企画常任委員会	
19日	議会改革推進会議	
24日	教育民生常任委員会	
26日	議会運営委員会 全員協議会	
12月	27日	議会運営委員会
30日	公共施設のあり方調査特別委員会 広報広聴委員会	
1日	政策企画調整会議	
4日	議会改革推進会議	
7日	12月定期議会（18日）	
8日	総務企画常任委員会	
9日	教育民生常任委員会	
10日	産業建設常任委員会	
11日	広報広聴委員会	
14日	公共施設のあり方調査特別委員会	
16日	総務企画常任委員会	
17日	教育民生常任委員会	
18日	産業建設常任委員会	
22日	議会改革推進会議	
24日	政策企画調整会議	

これからの生活への不安



あせぬまとよひさ 阿瀬沼豊寿さん (登米)

新型コロナウイルスの流行により、これまでの生活様式が一変し、新しい様式が必要となりました。また、仕事する上でも変化があり、さまざまな職種でも、仕事のスタイルの変化が必要となっています。その中で、仕事様式の変化への対応、また新しい様式での今後の見通しに不安の声が周囲から、多く聞こえてきます。
今後どうなるかわからないこのご時世で、市政も大変難しいかと思いますが、市民の生活を守るための政策を期待しています。
NHKの連続ドラマで登米市が注目されていますが、早く新型コロナウイルスの流行が落ち着き、多くの観光客の方々に来て頂けるよう、市民全体で出来るだけのコロナ対策、また協力をして、流行前の平穏な日々が戻ってくる事を切に願います。

オリンピック選手を夢見て



すがわら ゆうこ 菅原 祐子さん (中田)

私はスポーツが大好きです。自分で出来る競技はほとんど無くルールも分かりません。孫達がサッカー、陸上と頑張っている姿を応援する事がとても楽しみです。昨年はコロナ禍でさまざまな大会が中止となり、悔しい思いの一年だったと思います。
私は常々、登米市に全天候型の競技場があればと思っています。以前、建設が検討されている事を噂に聞き、早く実現される事を期待しております。
テレビで、大会開催競技場で練習している他地域の様子を見る度に、登米市の児童、生徒が思う存分、実践に向けた練習が出来る場所が身近にあればと思います。
私の大いなる夢。陸上競技に限らず、一生懸命取り組んでるスポーツで、登米市からオリンピック選手が出る事！環境の整備をよろしく願います。

この地域のこれから



なかむら けんた 中村 健太さん (津山)

限界集落という言葉を知り初めて聞いたのは20年近く前だったように記憶しています。私の住む地域もその一つです。
私には高校生の息子が2人います。あと数年で親元から離れることになりました。当然、寂しさは感じますが、家に子供がいない生活は想像もつきませんが、正直なところこの地域に残ってほしいとは思いません。互いの共助で成り立ってきたこの地域での生活がこの先困難になることが想像に難しくありません。全国的に進む少子高齢化の波に抗うことは難しいのが現実だと思えます。こうした地域は市内でも増加していくものと思います。縮小しながらも、それぞれの住み慣れた環境での生活が出来る限り持続可能なものとなるように、地域包括ケアシステムの構築も含め、地域の特色に合わせた取り組みが必要と感ずります。

あなたの声 市民メッセージ わたしの提言

ご意見等をお寄せいただきましたので、ご紹介します。

表紙の写真

議会を訪れた西郷小学校6年生のみなさん

登米市議会では招集議会の際、市民歌を斉唱しています。令和3年は西郷小学校のみなさんに、合唱していただいた録画映像を静聴しました。

今回の市民歌斉唱の取り組みを小野寺校長と3人の児童に伺いました。

校長 西郷小学校では元気な挨拶やきれいな歌声を目指し活動しています。今年度は中止になりましたが学芸会の全校合唱で市民歌を合唱しようと取り組んでできました。

ほとんどの行事が出来なくなっていました。子どもたちの心に残り、豊かな心を



録画は西郷小学校体育館にて、感染対策を施して実施



を育むことを探していました。

みなさんの温かいご配慮でこのような形で披露でき、とても幸せです。

児童 議会は大事なことを決めるところだと思います。市民歌は登米市のいいところがたくさんある歌です。

児童 市議会に来てうれしかったです。市民歌はこれからも登米市が栄えるように歌いました。

児童 議場は、木などを使っていて発言しやすいような会議場だと思いました。市民歌は歌詞に出てくるところや身の回りのことを想像して歌いました。

あとがき

テレビや新聞などで連日、新型コロナウイルス感染症拡大について報道されており、

今年に入っても、さまざまな行事が中止となっています。

その中で、「市議会だより」の表紙を飾ってくれた「アサガオのお世話をする一年生」「小運動会で精一杯頑張る児童たちの姿」など、私たちに元気を与えてくれた子どもたちが登米市にはたくさんおられます。医療は日進月歩。必ず

コロナに勝つと思っています。三密を避け、うがい、手洗い、マスクを着用して頑張りましょう。(佐藤千賀子)

広報広聴委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 熊谷 和弘 |
| 副委員長 | 佐々木好博 |
| 委員 | 上野 晃 |
| 〃 | 曾根 充敏 |
| 〃 | 須藤 幸喜 |
| 〃 | 岩淵 正弘 |
| 〃 | 佐藤千賀子 |
| 〃 | 関 孝 |
| 〃 | 岩淵 正宏 |
| 議長 | 及川 昌憲 |

議会からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症に伴う議会傍聴について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今後、本会議並びに各種委員会等の傍聴の自粛をお願いする場合があります。

2月定期議会

2月1日(月)開会

本会議はこれまでどおりインターネット中継でご覧になれます。

議会中継がスマホで見られます。

※スマートフォンでの視聴はバケット通信料定額制の加入契約をしていない場合、通信料が高額になる場合がありますので注意してください。